インタビュー

フジアルテ㈱
代表取締役社長
平尾 隆志 氏

「半導体にグローバルのチカラを」

外国籍人材の派遣・請負で実績

フジアルテ㈱（大阪市港区）は、創業63年を迎える人材カンパニーのパイオニアともいうべき存在である。グローバル人材（外国籍人材）派遣・請負のスペシャリストとして、急成長を続けている。とりわけ、半導体分野については体制の強化を図っており、子会社に半導体設計カンパニーを擁するほどだ。今回、同社を陣頭指揮する代表取締役社長の平尾隆志氏に話を伺った。

――長い歴史を積み重ねてきましたね。

平尾　多くの人たちに支えられ、創業から60年を超える歴史はお客様のご愛顧と、勤勉で誠実な従業員の努力によるものといっても過言ではないだろう。当社の事業内容は、製造分野を中心とした人材派遣・請負事業と人材紹介事業である。

――創業は1962年ですね。

平尾　鉄工請負業として個人事業の平尾工業を私の父が創業したことからすべての歴史が始まった。95年に私が社長に就任し、第2創業期として現在のフジアルテを設立した。90年から日本の少子高齢化に先がけて、入管法改正に伴いグローバル人材雇用を本格的に進め、グローバル人材の活用に取り組んできた。とりわけ、日系ブラジルの人たちを多く雇用することが社業の拡大につながった。

――フジアルテの強みについて。

平尾　それはなんといっても人材採用力と現場管理力であり、国内営業拠点33カ所の採用ネットワークを活用した全国採用で人材不足を迅速に解決していく。即戦力の人材が3年以上就業できる〝無期雇用〟にも対応している。また長期的に安定した就業につながり、職場の若返りや活性化にも貢献する新卒派遣にもやノウハウを積み重ねることで、全国に42社しかない製造請負優良適正事業者の第1号として認定を受け、お客様に価値あるサービスを提供できるよう取り組んでいる。

――日系ブラジル人の活用について実績をお持ちです。

平尾　ブラジルの現地法人による採用ルートを確立し、30年以上にわたり日系ブラジル人雇用のノウハウを持っている。勤勉で誠実な日系ブラジル人の採用では№1の実績を持っている。グローバル人材が安心して働ける仕事環境づくりだけでなく、家族も含め、長く定着いただけるような生活環境づくりもサポートしてきた。また地方自治体と連携した多文化共生社会の実現に向けた取り組みが、少子高齢化の社会課題の解決や地方創生の貢献につながり、当社が評価いただけているのだと考えている。

当初外国人に対してはアパート、マンションも貸せないという風潮があったが、当社の場合は会社が連帯保証人となって住居を確保してきた。多様な人材に活躍の場を提供するために、人と人とのつながりや地域とのつながりを大事にする社風が、その後も多くのグローバル人材が当社を選んでくれるきっかけになったのだと思っている。

――一方で、最近ではアジアでの採用も進めています。

平尾　ベトナム人とフィリピン人も積極的に活用しており、様々な製造現場のお客様の要望や課題に対応するために、地域性も考慮して最適な提案を行っている。現在は1万人の従業員に活躍していただいているが、半数がグローバル人材である。また、グローバル人材も日本人も実績と評価により同じ待遇にするという基本方針があり、国籍に関わらず賃金差別のない社会を目指したいと考えている。このことはお客様にもご理解いただけるように取り組んできた。

――ユーザーの構成比率については。

平尾　電子デバイスが全体の40％を占めており、最大分野だ。世界的な半導体ブームを背景に、当社としても半導体業界の活性化と人手不足解消に貢献したく、専門教育を行う研修センターを作り、ものづくり人材の育成に全力を挙げている。

――半導体を扱う子会社もありますね。

平尾　横浜に本社を置くシンコムは当社のグループ会社であり、半導体の設計開発受託やエッジAIソリューションの提供を行っている。AI時代の本格的な到来でAIチップの需要も急増しており、エッジAIのアルゴリズムも求められている。シンコムの果たす役割はますます重要になっていくと思う。

――さて、今後の展望は。

平尾　経営ビジョンに「多様な人材に活躍の場を企業には高付加価値サービスを提供する」と掲げている。当社を活用いただくことで、人材の確保と定着のみならず、生産性向上に課題がある企業へ「真のグローバル化」と「高付加価値サービス」を推進できると考えている。グローバル人材活用やものづくり改善のコンサルティングも行っているので、ぜひご相談いただきたい。また女性労働力の活用も進めており、現在は従業員の30％が女性であるが、さらに活躍の場を増やしていきたい。60歳以上の人たちも十分に活用していくべきと考えている。時代の変化に合わせて、価値あるサービスを提供し、社会に貢献できる人材カンパニーを目指していく。

（聞き手・特別編集委員　泉谷渉）